



風に乗る姿は軽し—— 豊秋河原の青空を舞台に「いかざき大凧合戦」

400年以上も前から続く「いかざき大凧合戦」(同実行委員会主催、久保美博^{よしのひろ}実行委員長)が5月5日、豊秋河原で行われました。およそ4万3,000人が訪れ、大空で繰り上げられる勇壮な合戦に見入りました。

大凧合戦は、凧糸に付けたガガリと呼ばれる刃物で互いの凧を落とす戦い。今年は風が吹く、絶好の凧揚げ日より。120チーム・約400人が揚げる凧は次々と高く舞い上がり、白熱した戦いが繰り上げられました。

もう一つの見どころは「100畳大凧揚げ」。縦14.4m、横12.5m、重さ約90kgの大凧がクレーン車で持ち上げられると、その大きさに会場から驚きの声が上がりました。中学生ら約100人が力を合わせてロープを引っ張り、100畳の大凧揚げに挑戦。大浮揚とまではいきませんが、風を考慮して100畳凧を移動させる珍しい場面もあり、観客を沸かせました。

その他にも初節句を迎えた子どもたち154人の名前が書かれた出世凧揚げ、少年剣道大会、五十崎中学校の男子生徒が作った創作凧の審査、初節句行事、凧踊り保存会による「凧おどり」の披露など、さまざまな催しがありました。

久保実行委員長は「素晴らしい風が吹いて、出世凧も空高く揚がった。合戦や100畳凧揚げも迫力があり、盛り上がった。初節句を迎えた家族や、観客の皆さんに喜んでもらえたと思う」と話しました。



1_きれいな青空に揚がる約300統の凧。 2_和太鼓集団「和達」と郷土芸能部の太鼓演奏が、合戦を盛り上げる 3_凧おどりの化粧をして出番に備える 4_自分の名前が入った凧で参加した双子の女の子 5_約100人が力を合わせた100畳大凧揚げ 6_出世凧の前では、初節句を迎えた家族らが記念撮影



雨が降っても元気な子どもたち 「第16回子どもフェスティバル」

「子どもフェスティバル」(同実行委員会主催)が5月16日、内子運動公園総合グラウンドで開かれました。

自衛隊や消防など57団体が協力して、趣向を凝らした体験コーナーなどで子どもたちを喜ばせました。子どもたちはお化け屋敷や巨大迷路など、さまざまな体験や遊びに夢中。雨にぬれたグラウンドで足元は泥だらけでも、笑顔は晴れやかでした。

小雨の中、親子連れなど1,800人が来場

川ツツジの咲く小田川で ゆっくりと流れる筏を楽しむ

「第25回川まつり・筏流し」(川登自治会主催、谷岡進^{すすむ}自治会長)が4月26日、川登地区で開かれ、大勢の観客が悠々と川面を流れる筏の姿を楽しみました。

汗ばむ陽気で、水辺の生き物観察や筏の体験乗船が人気。子どもたちは小田川に触れながら、楽しそうな声を上げていました。初めて筏に乗った小川晃生くん(4)は「ちょっと揺れたけど、気持ち良かった」と笑顔でした。



楽しそうに筏に乗る子どもたち

1,000本のシャクナゲがお出迎え 「泉谷棚田しゃくなげ祭り」

見頃を迎えたシャクナゲを楽しもうと「泉谷棚田しゃくなげ祭り」(同実行委員会主催、上岡満榮^{みつえ}実行委員長)が4月26日、御祓地区で初めて開かれました。

参加者は棚田米のおにぎりと美しい景観を味わいながら、餅つきや豊年踊りなどの催しを楽しんでいました。上岡会長は「10年間で1,000本のシャクナゲを植栽した。いろいろな季節の棚田を見に来て」と呼び掛けました。



天気も良く、多くの人でにぎわう会場

ふるさと南山の元気な姿をいつまでも—— 「南山おんごく山菜まつり」を初めて開催

南山地区の豊富な山の幸を楽しむイベント「南山おんごく山菜まつり」(南山自治会主催、源田幸生^{ゆきお}自治会長)が5月2日、南山自治会館で開かれました。

南山自治会の人口は71人(27年5月1日現在)。若い住民が少なくなり、自治会対抗のスポーツ大会などにチームで参加できなくなっていました。源田会長は「このままでは地域が廃れてしまう。南山のおいしい水と山菜を使って、なんとか地域の元気を取り戻そう」と考え、同イベントを企画しました。

「おんごく」は地域の方言で、山の奥という意味。「仇討ち猪鍋」「釜揚げおぞろ(うどん)」などと料理名を工夫した他、ユキノシタ・ウッド・コシアブラの天ぷらなど、山の魅力あふれる料理で来場者を楽しませました。

約200人が来場し、ここ数年で一番のにぎわいと言う源田会長は「地域の年配の人たちも参加してくれ、元気な姿を見られたのが良かった。予想以上の反響で、こちらも元気をもらった。来年も続けて、小さな自治会でも頑張っている姿を見せたい」と喜びました。



1_シイタケやワラビなど、たくさんの山菜が並ぶ販売所 2_タケノコの天ぷらをパクッ「おいしいー」 3_緑に包まれた会場 4_サクサクに揚がった天ぷら